

全国文学館協議会共同展示第 2 回

「3.11 文学館からのメッセージ—天災地変と文学」参加

『鞍馬天狗』誕生 90 年」展で震災復興を願う
 大佛次郎記念館で 3/16(日)まで開催中

大佛次郎(本名野尻清彦)は、25歳の時に鎌倉で関東大震災に遭遇しました。このときの被災体験を踏まえのちに「日本にいる限り、いつでも地震があり得ることを忘れないようにした方がいいようである。」と記しています。

震災により翻訳物を掲載していた雑誌「新趣味」が廃刊となり、発表の場を閉ざされた野尻清彦は、翌年講談雑誌「ポケット」に、初の時代小説「隼の源次」を大佛次郎の筆名で発表します。続いて「鞍馬天狗」を世に出し、流行作家となりました。

90年前に生まれた「鞍馬天狗」は、時代小説に新風をもたらし、その後長きにわたり人々に希望を届ける物語となりました。

この展覧会で「鞍馬天狗」からのメッセージを感じていただけましたら幸いです。



大佛次郎 初期「鞍馬天狗」シリーズ執筆のころ



「おじ
 小父さんは、
 人間が好きなのだ」
 「角兵衛獅子」より

玉井徳太郎画「絵物語鞍馬天狗」より昭和 29 年 弥生美術館蔵

「鞍馬天狗」とは…

大佛次郎が 1924 年(大正 13)から 1965 年(昭和 40)までの約 40 年にわたり書き続けた作品。主人公の鞍馬天狗は幕末維新をかけぬける黒頭巾の武士として登場しました。敵味方にかかわらず人命を尊重し、どんな局面でも明るさを失わないキャラクターは、戦前から戦後、時代を超えて人々の心に灯を届けるヒーローとして読み継がれています。

「全国文学館協議会共同展示」は、協議会加盟館が共通のテーマのもとに展示を同時開催する企画。2回目となる本年は「3.11 文学館からのメッセージ—天災地変と文学」をテーマに、36館が参加しました。

全国文学館協議会の中村稔会長は、開催趣旨の中で「この文学展のメッセージが、3.11を含む天災地変の死者たちへの鎮魂と哀悼、被災者の方々への慰謝となることを期待している」と記しています。

大佛次郎記念館 〒231-0862 横浜市中区山手町 113 港の見える丘公園内

アクセス：みなとみらい線「元町・中華街」駅下車徒歩 8 分 休館日：月曜日(祝休日の場合は翌平日)

開館時間：10:00~17:00 (4月~9月は 10:00~17:30、入館は閉館の 30 分前まで)

観覧料：おとな 200 円(150 円)、小中学生 100 円(80 円)

()内は 20 名以上の団体料金/毎月第 2・第 4 土曜は高校生以下無料/市内在住 65 歳以上の方は無料

お問い合わせ

大佛次郎記念館 館長：沼尾 実 副館長：福富潤子 展覧会担当：吉田美恵子

Tel:045-622-5002 FAX:045-622-5071 〒231-086 中区山手町 113 <http://osaragi.yafjp.org/> <http://osaragi.exblog.jp/>

「鞍馬天狗」を書くようになったのは地震のせいだけである。
 大佛次郎エッセイ「鞍馬天狗と三十年」より「サンデー毎日」昭和 29 年 11 月